

吉右衛門窯と奥畑ダムを見学して

弁城坑の少年小女たち



四月五日、弁場では折からの驟雨に見舞われたが、現場事務所でスーヴを焚いて貰い終始元気に行動した。

(写真背景は奥畑ダム)

(分館長 久保正男報)

1月—3月

ろから魔法の
様に生れる壺
や皿に驚き、
奥畑ダムでは、
近代化される
郷土の新しい
姿に目を躍つ
た。ダム工事

1月20日（新町）
1歌の練習
2講話（主事 松尾勲）
1、婦人学級の運営について
3座談会
1月21日（西区）
一、婦人学級結成式
1歌の練習

防犯だより

急ぐ事件は

四月より電話一一〇番開通

田川警察署に、二一〇番、が四月一日から開通しました。

急ぐ事件や一刻も早く警察に来てもらいたいときは、田川局の「二一〇番」を呼んでいただければ、田川警察署が出ます。この「二一〇番」は急を要する事件や事故の場合だけに使うことになっていきますから、用件は簡単に、目標をて下さい。

はつきり言ってもうえば、それなけ早くパトカーがかけつけることになります。

なお普通の用件は

三七	一六六	一六七
二八四	二八五	

の五つが、警察署の交換台に入っていますから、この番号を利用して下さい。

欧米諸国に遊学して

アメリカの旅

ーク病院に留学、無事卒業された
 義務たには果し、帰路歐洲及びア
 ジヤ諸國、英國、フランス、ドイ
 ツ、バシス、イタリ、エジプ
 ト、パキスタン、インド、タイ、
 香港を遊歴見学しつゝがな本
 年九月十日東京羽田に空路帰国す
 る事が出来た事は、恩師和佐
 野教授の御厚情に依る事は勿論で
 ありますが、町長及び前所長渡辺
 先生並びに喜様達の多大の御理解
 と御厚情に依るものと心から感謝
 致しております。振返つてみます
 と、渡米留学試験を前にして、論
 文作成、病院の仕事と多忙を極
 め、留守をする事多々、御迷惑を
 与へ、留守をする事多々、御迷惑を

はり百聞一
事内より聞閉する国アメリカに入
るに便利を感じながらも、只仕事
に不安焦燥日々を送っている
渡米後、七月頃、倉石町長が南
米視察の帰路、十月頃ニューヨーク
景にした経
大に土地、
高層建築と
マチック化
僚のメキシコからの女医が解雇に

方城町の今昔

伊方区の財産第一岩谷区方城地区に左右さ

の山林は山林、沢山約三町歩位と思ふ。其の町歩が放任して居る。各様に区
 爲め、ある地区の人から自由に使
 用されてゐる村の人は何とも思
 はないのか、又お旅所も区民
 の心が合はなかつた個人の権力に
 て左右されてゐる様である。更に

前村部落の変遷

いる有様である。である。

此の外幾多の土地 昭和三十四年度即ち
に左右されているこ でに此の前村地区の
いが畑山に伊方区 の団結で良い地区に

婦人學級メモ

二区に同じ
2月18日（一区）
五区に同じ
4映画の鑑賞の仕方について
3月13日（弁城炭坑）
1歌の練習



食生活改善講習會

3月25日（後台）
1 歌の練習
2 講話（子供の寝方について）
3月24日（倉石炭坑山の手）
1 歌の練習
2 講話（①子供の寝方について
②婦人学級の運営につ
て）
3月25日（中原）
1 料理講習会

俳句

三月廿五日方城俳句会は高野素先生並びに還入つたみ先生を上野城の吉備門簾に御案内する。吾々の自動車はいち早く見て出る迎へる簾主と先生は、すでに知客の御用でいそと先に立つ簾主案内で陶房の一室に落付く。昨年この簾を訪れた時の先生の陶工の一家に冬日暖かに。初簾のものとなつた花と蝶の句を思い出し、丁度今の簾が、葵葉葵より第一回目の作品の簾間直にたが、今は素焼前の白地の

陶房の温床にまた牡丹の薔に句の簾は尽きない。

材料の夫人千枝子さんも加り女性車がいつもながらや、優勢となる。句作に熱心なあまり接木の藁ををかき分けて覗いたりする不心得者もいる、散敷く椿を踏みながら溪流に沿つてのべれば、陶匠の母家の裏に出る、奥ヶ畑にかけての棚田々々は菜の花咲き乱れ、げんげ、青麦と色を重ね、高く低く舞う蝶にたゞ平和だね、綺麗だねといつづきながら、その美

吉右衛門窯訪問

高野素十先生をお迎えして

香 月 梅 邨

苗床をたたくゝ蝶のひと渡り
蟹山の右に左に蝶多し
火の国のけふの春日に目をつむ
り
素十選
運入 たつみ
ろくろが見ればろくろ蹴りたゝ蝶
のとぶ
陶房も其一軒や杏花村
河原 比佐於
吉石衛門谷李の花と露跡と
売るほどの苗にもあらず五六百
吉村 雅子
春の日にくろくろくくくろ
くと
笠 鳴海
雨三日降らねば接木つくといふ
松田 秋郊
苗床のなすびの苗とわけてまぢ
春山をほとばしりきて陶の水
河原 好枝
春水に縋を洗ひて厭事
はらひなきの花にもしとて蟹
道
安武 白茅
苗障子白のつよければはねてあ
り
笠 鳴海
蔓鉢の西瓜の芽とてまだ小さく
雨三日降らねば接木つくといふ
堀川 炭舟
硬山のかたちうすく春霞
香月 梅郷
この谷にある一本の山桜
牡丹咲く留露元へもう一度
蔓鉢の一つゝに萌ゆるもの
以上で成績がある。だが昨日の句
会に引続き先生のあすゝの教訓
の内、見た事を大切にせよ、
前は臆病に、出句した以上は自分
の句に自信を持て、と言われた御
言葉をかみしめつゝ二時の汽車で
帰られる先生を御見送ります。

務して居られた。其の当時熊見炭坑の發展に協力して居たと思へる使用の机は横二尺、縦四尺の引き出し付であつた。其の机も本事務所が出来、引越しの際宮崎に譲つて貰ひ今宮崎に保存されてゐます。又熊見坑長は時々宮崎の家に遊びに來られて座談されて居られた誠に良い坑長さんでした。二、方城鋳業所の便宜上伊方地区の旧土庫や道路等變更して町又はしきと蘇せられ時のたつのも忘れやうが投句の締切を知らせる声にやうと吾に帰り、それぞれ陶房の一室に引上げる。

清記 選句となごやかな勢風氣の中に進み炭母氏の名調子による被稿となる。一般選を終りたつて先生の選についで素先生の選となるが、皆胸をときめかして今日の作品の中一句でもと、心に念ひながら耳を澄ます。

三、伊方の桑野重三郎外、名の土地を方城坑に売却したことも協力の一つでありました。此の様に全町の發展に寄与した前村の事は誠に今日吾人が決して忘れてはならない因縁の深い前村であります。

中原 一線
ほうれん草引かれし間に竝挿され
吉田南窓子
ぎしりて鬼灯の芽の一と畑
堀川 炭舟
畠の中柿の接木を植したあり
香月 梅郷
この大樹芽吹きけるやと打仰ぎ
こんにやくの曲玉の芽を上げにけり
つとむ先生作